

ビンナガ 北太平洋

Albacore, *Thunnus alalunga*

管理・関係機関

中西部太平洋まぐろ類委員会(WCPFC)、全米熱帯まぐろ類委員会(IATTC)、北太平洋におけるまぐろ類及びまぐろ類似種に関する国際科学委員会(ISC)

生物学的特性

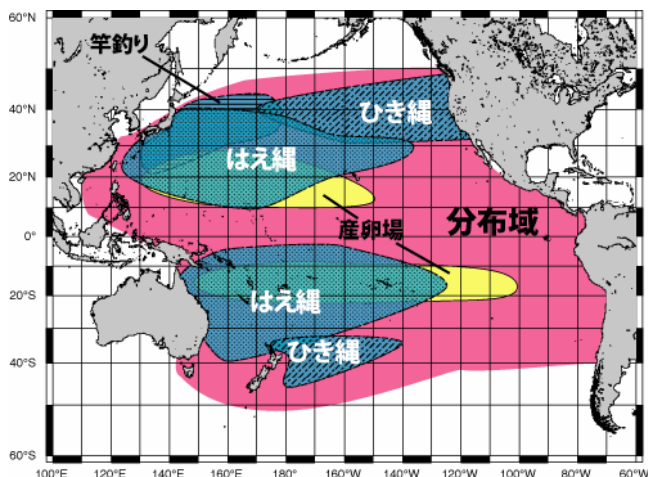
- 寿命: 16 歳以上
- 成熟開始年齢: 5 歳
- 産卵期・産卵場: 4~6 月が盛期、台湾・ルソン島からハワイ諸島近海(水温 24℃以上の水域)
- 索餌場: 温帯域
- 食性: 魚類、甲殻類、頭足類
- 捕食者: まぐろ・かじき類、さめ類、海産哺乳類

最近一年間の動き

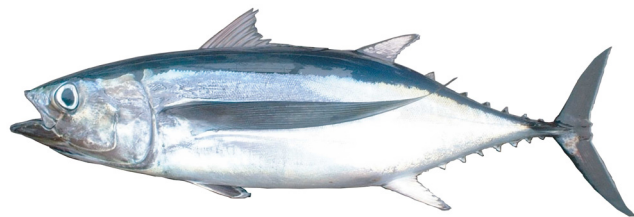
2006 年 1~6 月の日本の竿釣り漁業のビンナガ陸揚量は前年を大幅に上回った。2006 年 1~3 月の伊豆列島西側漁場のまぐろはえ縄漁業による釣獲率は、最近 5 カ年の平均値を僅かに下回った。

漁業の特徴

本資源は主に日本の竿釣り、米国の曳縄および日本・台湾のはえ縄で漁獲される。流し網やまき網でも漁獲されるが漁獲量は少ない。竿釣りおよび曳縄漁業は北緯 25~45 度で夏~秋に行われ、未成魚(2~5 歳魚)を漁獲する。はえ縄漁業は北緯 25 度付近より北側では冬~春に未成魚および親魚(6 歳魚以上)を、その南側では周年親魚のみを漁獲する。

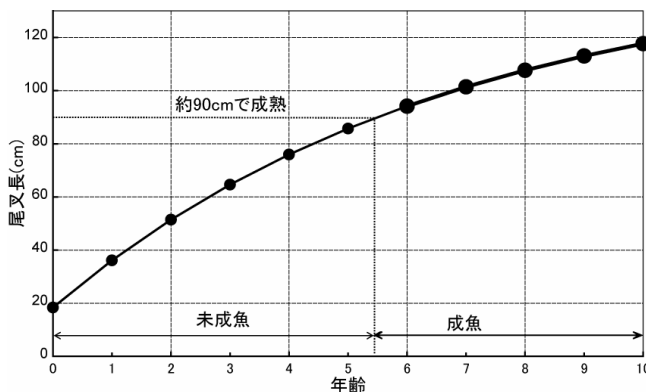


ビンナガの分布と主な漁場
(久米 1985、西川ほか 1985、上柳 1957)



利用・用途

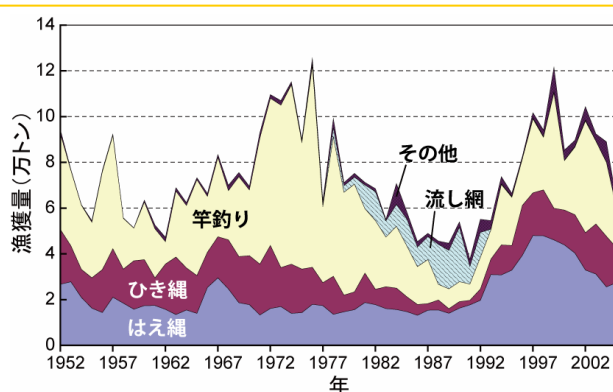
刺身や缶詰原料として利用される。



北太平洋ビンナガの年齢と尾叉長(cm)の関係(須田 1966)

漁獲の動向

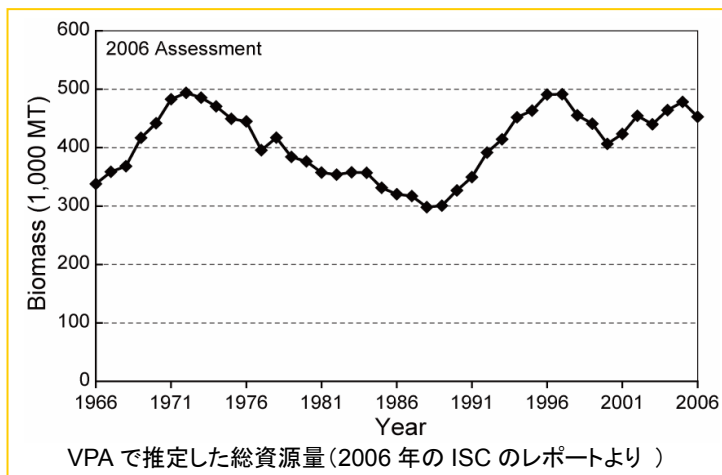
本資源の総漁獲量は 1970 年代に最大(12.5 万トン)となり、その後減少し、1991 年には 3.8 万トンまで減少した。しかし、その後漁獲量は著しい増加傾向を示し、1999 年には 12.1 万トンに達した。その後は 8.3 万~10.4 万トンの高いレベルで推移している。2005 年の総漁獲量は 6.2 万トンで、近年の総漁獲量は 2003 年(9.2 万トン)以来減少し続けている。かつては全漁獲量に占める竿釣りによる漁獲量の割合が最も大きかったが、1990 年台中期からはえ縄の割合もかなり大きくなっている。



本資源の漁法別漁獲量(トン) (2006 年の ISC のレポートより)

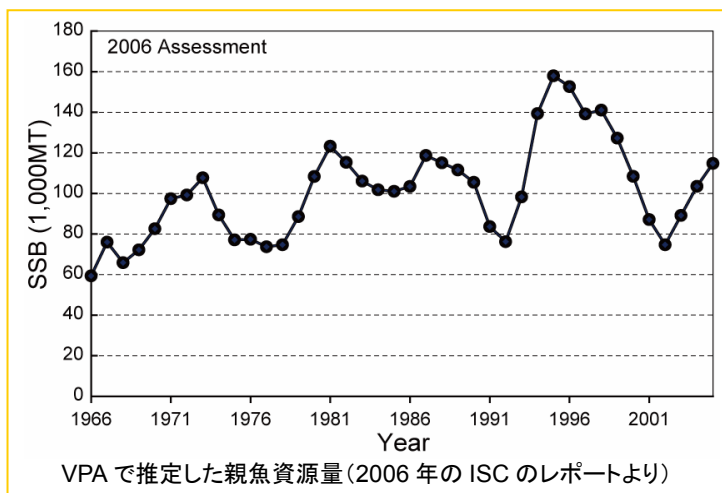
資源状態

推定した総資源量は 2006 年初頭には 45 万トン、2005 年の親魚資源量は 11.5 万トンであった。つまり、近年の資源量水準および産卵資源量水準は、過去 41 年間に於いて比較的高い水準にあることがわかった。



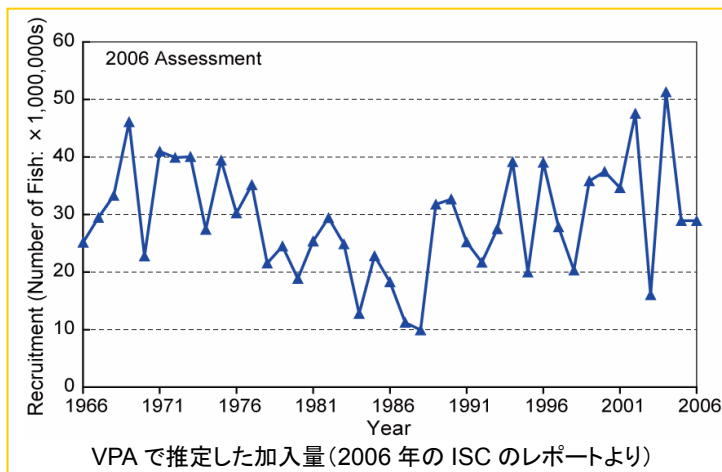
管理方策

北太平洋に分布するまぐろ類全般を対象とし、日本、米国、台湾、韓国等の科学者が参加する科学委員会である ISC は「親魚量が過去の観測値の中の、下位 25%以上を維持するように現在の漁獲死亡係数を適度に減少させる必要がある」、と、2005 年に勧告した。



資源管理方策まとめ

- ISC は 2005 年の ISC 全体会合では、過去の最低 SSB をベースとした管理基準を検討し、現在の F を適度に減少させる必要があることを勧告した。
- WCPFC 及び IATTC は、本資源に対する漁獲努力量を現状以上に増加させないよう決議した。



資源評価まとめ

- 2006 年の資源量は 45 万トンであり、過去 31 年間で高い水準にある。

ビンナガ(北太平洋)の資源の現況(要約表)

資源水準	高位
資源動向	横ばい
世界の漁獲量 (最近 5 年)	6.2~10.4 万トン 平均: 8.7 万トン
我が国の漁獲量 (最近 5 年)	3.8~7.6 万トン 平均: 5.8 万トン